

## 世界の切手に見る消防関係の切手(3)

平岩道夫(切手評論家)



写真①



写真②



写真③



写真④



写真⑤



写真⑥

今月はジブラルタルが消防活動125年を記念して発行した4種の切手を、紹介してみよう。

ジブラルタルといえば、まず日本人なら“ジブラルタル海峡”というのを学校で習ったことがあるなァ——くらいの印象しかないはず。

イベリア半島南端とモロッコとの間の海峡で、地中海の西の出口にあたる——といった方が、もっとはっきりわかりただけのかも知れない。

面白いことに、北部のイベリア半島側にはイギリス領のジブラルタルが、これに相對し、南部のアフリカ大陸側にはスペイン領のセウタがある。

(写真①)は、改めて解説するまでもなく、消防活動にはなくてはならない同国が

誇る“消防自動車”を描いた切手。もちろんハシゴも備えている。

(写真②)と(写真③)は、制服に身を包んだ消防活動中の消防士たちを描いた切手。

(写真④)は消防隊員を乗せて救助活動に向かう特別仕様の車を描いた切手。

(写真⑤)と(写真⑥)の2枚の切手は、中華人民共和国から発行されたもので、2枚とも右上に“消防”という“漢字”が見られる。

ジブラルタルにしても、中国にしても、いずれも同じように“火災”を防ぐということについては、国をあげてがんばっている様子が、切手を通じてひしひしと感じられる。